

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第22回(令和3年度第1回)キセラ川西エコまち協議会	
事務局(担当課)		土木部公園緑地課	
開催日時		令和3年11月1日(月) 15時00分 ~ 17時00分	
開催場所		オンライン開催	
出席者	委員	加藤、山中、松村、武田、安田、山田、松塚、大西、中家、中垣、畑中、船木、大島(代理)、篠崎、阪上、宮定(敬称略)	
	その他	(オブザーバー)日村(敬称略)	
	事務局	足立、福庭、阪本、渡辺、鈴江、古山、小早川、日置中川、戸知谷、杉山、西本(調査機関)	
傍聴の可否		可	傍聴者数
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1 開会あいさつ 2 報告(前回からの動き) 建築行為等の手続条例運用状況(令和3年9月30日時点) (資料1-1) サイン計画について(資料1-2) みどり部会について(資料1-3) 環境学習・普及啓発(資料1-4) みどり分野におけるまちの緑化モニタリング及び状況報告 (資料1-5) 全日本建設技術協会主催の“全建賞”を受賞(資料1-6) 3 議事 建築分野におけるエネルギーモニタリング(資料2-1) 4 今後の予定	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

審議経過

<開会>

- ・会議の成立、公開、資料、本日の出席者について事務局より確認した。

1. 開会あいさつ

○土木部長

- ・本日はキセラ川西エコまち協議会にご出席いただきありがとうございます。昨年度は土木部の副部長として委員の立場として出席していた。今年度からは事務局という立場で参加している。引き続きよろしくをお願いしたい。
- ・土木部の組織改編について、昨年度までは、キセラ川西推進課が所管していたが、今年度からは公園緑地課が引き継いでいる。また、区画整理事業は土木部から都市政策部へ移管された。こちらは、昨年度、換地処分の公告を無事に終えて、残りは清算金の徴収事務の一部ということでほぼ最終局面を迎えている状況である。
- ・現場の方は、地区内に位置する川西市総合医療センターは、既に建物の全貌が見えている状況である。令和4年9月の開院に向けて順調に行っているのではないかと思います。
- ・改めてこのエコまち計画の取り組みについては、10年間の計画期間の内、残すところ1年半のみである。これから、これまでの取組をどう総括していくのかという所が問われて行く。最終評価とその後の展望について、現在庁内でも議論を進めている所である。一定の整理が出来た所で、改めて委員の皆様にご協議いただく事となる。
- ・事務局としては、この計画を最後までしっかりやり遂げて終わりにしたいと考えているので、引き続きのご協力をよろしくをお願いしたい。

2. 報告（前回からの続き）

○事務局

・資料説明

建築行為等の手続条例運用状況（令和3年9月30日時点）（資料1-1）

サイン計画について（資料1-2）

みどり部会について（資料1-3）

環境学習・普及啓発（資料1-4）

みどり分野におけるまちの緑化モニタリング及び状況報告（資料1-5）

全日本建設技術協会主催の“全建賞”を受賞（資料1-6）

○会長

- ・資料1-1から1-6まで、ご報告いただきありがとうございました。ご質問、コメントがあればお願いしたい。次第の報告事項 建築行為等の手続条例運用状況、サイン計画について、まず、ご質問がありましたらお願いしたい。
- ・サイン計画については、3月に向けてこれから検討するということではあるが、最終案について次のエコまち協議会で出すということか。今回の案がそのままとなる可能性もあるのか。

○事務局

- ・ 先ほどの説明の通り現在検討中であり、特に地図で説明を行った、矢羽根サインで紹介する施設については確定していないので変更となる可能性がある。
- ・ 計画案については中身が変更になることもあり、このまま確定するわけではない。

○会長

- ・ これから鋭意検討されるということである。他にご意見はいかがか。それでは、報告事項 ~ についてご意見いただければと思う。

○委員

- ・ 資料1 3みどり部会の報告について補足コメントしたい。一つ目は、「2 キセラ川西せせらぎ公園の利活用の状況」について、先日、10月23日に都市計画学会関西支部の30周年記念式典でキセラ川西せせらぎ公園を利用させていただいた。市の皆さんにはよくいただき感謝したい。学会の事務局側として利用者の立場で、コロナ禍において新しい生活様式として、屋外空間を活用させていただいた。使う側に立ってみて分かったことがある。
- ・ 当日は、キセラ川西プラザと公園の芝生広場のステージを一体的に活用させていただいた。キセラ川西プラザの屋内と屋外の連携したプログラムによりまちとしての一体的なマネジメントなど、利用促進に繋がり、プログラムの価値を高めることに繋がって行く可能性も感じた。今後、周辺と連携した公園の使い方についてもますます求められるのではないかと。
- ・ 二つ目は、キセラ・カフェやこの指トマレプロジェクトについては、コロナ禍においても継続的に熱心にご活動いただいている。この事業そのものは来年度終わるが、活動の継続性は重要と常々思っているところである。みどり部会でも、支援できればと考えている。行政組織もキセラ川西推進課が解散される中で、次の展開に向けて市民を巻き込んだ取組を実施するなど、次の段階へのステップアップしていく時期かと考えている。

○会長

- ・ ありがとうございます。学会ということで、今後の課題でみどり部会のあり方や将来像をつくるための仕組み、持続するための仕組みについてもいい知恵がいただければと期待しているが、いかがか。
- ・ 環境学習は、コロナの影響で事業がこれからスタートするということだが、みどり部会の利活用状況ではコロナの影響はあまり施策としてはなかったのか、順調に展開してきたということで良いか。

○委員

- ・ まず、学会員の皆様に足を運んでいただいたというのは大きいと感じている。市長にもごあいさついただき、また、キセラのこれまでの歩みについて展示ブースを設けさせていただいた。キセラの内容を知っていただく機会となった。
- ・ 若手のプログラムも実施しており、2040年に向けたライフスタイルに根差した都市のあり方の提案を行っていた。次の世代にもこの場所で、こういう取り組みについて報告いただき、この場の将来についても考えてもらう機会になったかと思う。具体的な話にはなっていないが、今後の

学会との協力や支援の体制も含めて貴重な良い機会になったかと思う。

○事務局

- ・ 公園の利活用状況はコロナの影響を受けていない。一方で、キセラ・カフェやこの指トマレプロジェクトなどの話し合いの場は、緊急事態宣言下では実施できないこともあった。

○会長

- ・ 順調であるということかと思う。最後に、報告 について、ご意見いただければと思う。事業全体についての表彰であると思う。この受賞主体はだれか。

○事務局

- ・ 受賞主体は川西市となっており、いただいた盾については、都市政策課の窓口に飾らせていただいている。なお、評価自体は、市民の皆様の取り組みも含めて、まちづくり全体に評価いただいたと考えている。

○会長

- ・ 地域への情報公開も積極的にしていただければと思う。

3. 議事

○事務局

- ・ 資料説明
建築分野におけるエネルギーモニタリング（資料 2-1）

○会長

- ・ ありがとうございました。ご説明に対して、ご質問・ご意見がいただければと思う。

○委員

- ・ 事前のご説明時より、大変わかりやすくしていただいてありがとうございます。図 4 ベースラインとまち全体の一次エネルギー消費量推計値との比較についてお聞きしたい。まち全体の削減目標（8%）とあり、補足が吹き出しで記載されている。これはどういう計算をされているのか。実際に、13%削減されたというのが結果で実績値だと思うが、それに対してまち全体でこの8%の意味はどういう意味か。また、補足の10%削減の仮定について教えていただきたい。

○事務局

- ・ キセラ川西まちづくり計画では、まち全体の数値目標が定まっておらず、指定建物の10%削減目標のみが設定されている。新築建物については全て10%削減され、既存建物はそのままという仮定をした場合、まち全体の目標値が8%程度になるのではないかということを示した。
- ・ なお、R2年度実績は全体で13%くらいまち全体に対して削減しているということになり、目標より削減されているという状況であった。ただ、R2年度、集客施設などはコロナの影響がみられているかと思うので、全てが通常の削減量ということはいきれないところもある。

○委員

- ・ 市民がこの資料を見た場合、今の説明を聞かないで理解できるかどうかである。まず、まち全体の削減目標が8%ということがよくわからない。目標が無いといいつつ、ここに記載されているのはどういうことか。

○会長

- ・ まち全体の目標は計算されたのか。

○事務局

- ・ 低炭素まちづくり計画には、まち全体の目標は記載されていない。指定建築物は10%削減、それ以外の建物についても一次エネルギー消費量の削減に努めると記載されている。
- ・ 8%は、既存の建物は現状と変わらないとして設定し、面積比率等から効果を算定すると8%くらいが期待されるという表現となる。低炭素まちづくり計画に目標が書かれていればお示しするが、書かれていないのであいまいな表現になっている。

○会長

- ・ 目標が10%とある部分と、そうでない沢山ある未定の部分について、一定の前提を置いて計算されて8という数字に落ち着いたのか。それとも計算すると8.5や9になる可能性もあるのか、そのような曖昧性を抜きにして、どんぶりでは8%になっているのではないかという質問でもあるかと思う。
- ・ 10%の目標は良いが、8%に落ち着く説明について理解ができないということではないか。

○委員

- ・ 単純に、削減目標が8%と書かれているとよいが、突然出てくるので、それが目標8%の所が13%も削減して凄いと捉えかねられない。また、新築建物の10%削減はあくまでも指定建築物の目標であり、その他の新築建築物については書かれていないので、それはどうなのか。
- ・ 吹き出しの「期待される」という表現が、グラフを見ての事なのか別途違う計算に基づいて言っていることなのか吹き出しの趣旨がよくわからない。
- ・ 書く以上分かりやすく書かなければいけない。もう少し整理された方が良い。

○事務局

- ・ ご意見踏まえて、公表前に市の方で精査していきたい。

○委員

- ・ 市民が見るものなので、分かりやすいものにしていただきたい。

○会長

- ・ 適切な表現にしていただきたい。公表資料はどこまでか。

○事務局

- ・ 4/7 頁までが公表資料となる。

○会長

- ・ 図 2 と図 4 の削減量が 5.3 万 GJ と同じ値だがそういうものなのか。たまたまそうなったのか。

○事務局

- ・ 左側（図 2）の方が実際に回答いただいた実績の数値の削減量として 5.3 万 GJ である。それをまち全体として表しているのが右側（図 4）であり、破線で囲われている所が、左側（図 2）であり、それを反映されている削減量になっている。削減量は同じ数字の 5.3 万 GJ となっている。同じ数字で問題無い。

○会長

- ・ 対象が違うのに同じ数字なのは違和感がある。

○委員

- ・ 今のお話で過去との差は何処に表現されているのか。平成 30 年、令和元年なども少ないが削減量がある。図 4 は令和 2 年度に削減したエネルギー量であり、累積だともっと多いという理解でよいのか。

○事務局

- ・ 足せるかどうかという点について、検討が必要である。

○委員

- ・ 累積分は何処に行くのか。

○事務局

- ・ キセラ川西のエネルギーモニタリングは非常に手堅く、実績値で削減出来ていたら削減量としてみなす考え方である。
- ・ 先ほど、BEI と BEIm の所で、設計時にも基準エネルギーと建築の設計時点でのエネルギーでどれくらい削減できるかも算定しているが、キセラ川西は、実績値で削減量を把握している。
- ・ ここの標準推定の所は、建物省エネ法で言うと基準値のまま載っている。実際は設計時にエネルギー削減した建物である為、そこでも削減は見込まれるが、実際に報告があった数値で算定している状況となっている。
- ・ 例えば、市の総合医療センターは、通常エネルギー値が入っているが、実績値をいただくともっと下がってくる可能性がある。想定した実績値の話などをすると益々わかりづらくなるので、なるべくわかりやすく説明していきたい。

○委員

- ・ 確認であるが、図 3 は、そもそも累積値なのか。令和 2 年度の削減量ではなく、平成 27 年から

令和2年度までに建設された全ての新築の建物を対象とした総計に対してということか。

○事務局

- ・ はいそうである。
- ・ 図2、図4は毎年の調査結果を反映して時点修正を行っている。例えば遊技場は毎年調査をして、その単年度の削減量を示している。

○委員

- ・ 理解した。その中には令和2年度の新築だけではなく、計画スタート時以降に建築された建物の各年度でのエネルギー消費量の実績値と推計値の差異ということか。

○事務局

- ・ そうである。

○委員

- ・ そのあたりが分かりづらいポイントかと思うので、分かりやすくしていただければと思う。誤解を生まない表現にいただければと思う。

○委員

- ・ 念のため、5.3万GJ削減で、排出係数をかけあわせると、JとkWhの関数があわないので、チェックいただいた方が良くと思う。確認をお願いしたい。

○事務局

- ・ 再度、CO₂換算の数字については確認をしたいと思う。

○委員

- ・ 「(4) エネルギー別消費量報告の得られた建物の一次エネルギー消費量」の表6について、事前のご説明でお聞きしていたが、とんでもない数字が出ている建物があり、データを出していただく先方に提出間違いがあったのではないかと思われる点があるという話があった。例えば、No3、8、11など凄い値が出ているが、この扱いはどうなったのか。

○事務局

- ・ No3のファーストフード、No8のコンビニエンスストアはコインランドリーが併設されている。
- ・ 異常に高い値が出ていた物件について、業態の標準値を比較するのは難しいが、ファーストフード店は、全店舗のエネルギー消費量が公表されており、それから見るとそんな異常値ではなかった。
- ・ コンビニエンスストアについてもコインランドリーが併設されているので若干高くはなっているが、異常値ではなかった。高エネルギーを使う店舗形態ということである。
- ・ ただ、どちらも売り上げが多くなれば、使うエネルギー消費量も増えるだろうということで、リファレンス建物の標準を示すことが出来なかったのでX=Yとしてプロットさせていただいた。

- ・ 工場も生産量が多くなればエネルギー使用量が多くなる傾向があるので、 $X=Y$ としてプロットさせていただいている。その店舗については削減を見込んでいないということである。

○委員

- ・ ファーストフードの全店舗という意味はどうか。

○事務局

- ・ 全店舗のエネルギー使用量の数値は公表されている。店舗数で割って1店舗当たりのエネルギー消費量を算出すると、おおよそ同じオーダーの値となった。

○委員

- ・ その値が9,550なのか。それともこれは全店舗の値だから適切ではない。ということなのか。どちらなのか。

○事務局

- ・ ここに使っている数値は、今回の調査でご報告いただいたデータで実績値である。横はリファレンスの値としては、 $X=Y$ として、設定した。報告値としては、 $X=Y$ の所にそのままプロットさせていただいた。

○委員

- ・ 結局のところ9,550は正しくなくて、これは本来もっと低いはずであるということか。

○事務局

- ・ 全店舗平均値とおおよそ同じ数値であったので、これは正しい数値であろうということで、この数値を使用した。

○委員

- ・ 妥当な数値であるということでプロットされたということであるが、横軸の建物用途の原単位が適切な物が無いので、イコール実績値としてプロットをしているということか。
- ・ 実質的にはよくわからないということである。そういう処理をされるならば、プロットしなくてもよいのではないか。原単位が分からないものについては、プロットできないわけなので、プロットすると誤解を招くのではないか。
- ・ 表で、原単位の無い建物があると思う。その5件については、図6から除くということだろうか。

○事務局

- ・ 分かりました。原単位の無い建物については、図6のプロットから除きます。

○会長

- ・ よろしいか。公表するものについては、特に丁寧に対応いただければと思う。

- ・ 図7について、年度推移を掲載されているが、実績値として出ているということか。キセラ川西プラザの変動が大きいがどういうことか。

○事務局

- ・ 平成30年度の数字は、年間通して使われていない9月以降の供用期間のみの値となっている。

○会長

- ・ 供用期間について、具体的に記載したほうがよい。

○事務局

- ・ 分かりました。本来の意味で行くと、既存建築物についても省エネ化していくということが低炭素まちづくり計画で記載されているので、既存建築物のエネルギー消費量を削減していく為に、機器の更新をしていただくのが目標ではある。
- ・ 機器の更新をしていないにも関わらず、エネルギー消費量が下がっているのは、緊急事態宣言により施設を閉めていた時期があるので、それが要因ではないかと推測される。

○会長

- ・ 本当は、要因分析が重要であり、その点を知りたいところである。下がったというだけでは物足りない。これは政策に向けて、どういう意味があるのかを考えていただきたい。環境行動率先計画に基づき、削減されたものなのか、これだけでは分からないということである。
- ・ この背後にはいろいろあると思うので、推移の意味と、将来に向けた意味も含めて考察をしていただくと分かりやすいと思う。
- ・ それでは、公表に向けてご指摘いただいた点を修正いただきたい。最後のチェックは副会長にお願いできればと思う。

4. 今後の予定

○事務局

- ・ 本日はご議論いただき、ありがとうございました。
- ・ エネルギーモニタリングは、ご意見を踏まえて、修正を行い、速やかに公表の手続きを進めていく。
- ・ 次回のキセラ川西エコまち協議会は来年3月頃を予定している。日が決まり次第ご連絡をさせていただきます。

○会長

- ・ これで、キセラ川西エコまち協議会を終了とさせていただきたい。ありがとうございました。